

黒部市立清明中学校 令和8年度 学校だより第1号 令和8年5月22日

共に支え合い 粘り強く努力する たくましい生徒の育成

よう  
し  
鷹 志

## 「支え合う中で育つ鷹志の心」

校長 城 寺 賢 二

本校では、校訓「鷹志」の精神のもと、「共に支え合い 粘り強く努力する たくましい生徒の育成」を目指し、日々の教育活動を進めております。

先日、その実現につながる心温まる姿が見られました。にいかわ総合支援学校の運動会に、本校から15名の生徒がボランティアとして参加しました。生徒たちは競技の補助や準備・片付けに取り組むだけでなく、支援学校の生徒と共に応援し、頑張りを喜び合うなど、同じ場にいる仲間として運動会を楽しんでいました。気持ちのよいあいさつや笑顔での関わりに加え、自らできることを見付けて行動する姿も多く見られ、本校生徒のよさが随所に表れていました。

ボランティアの本来の姿は、「してあげる」のではなく、「共に支え合う」中で喜びや生きがいを見いだすことにあると考えています。今回の活動でも、生徒たちが自然に声を掛け合いながら関わりを深める様子が見られました。こうした経験の中で、それぞれが多くのことを感じ、学び、成長することができた貴重な時間となりました。

一方で、「誰とでも分け隔てなく支え合う」ということは、大人にとっても決して簡単なことではありません。相手の気持ちを考えたり、自分から声を掛けたりするには、勇気が必要です。しかし、そうした関わりの中で交わされる「笑顔」や「ありがとう」の言葉は、心に温かいものを残してくれます。自分の行動が誰かの役に立ったと実感できたとき、人とのつながりを感じ、自信や安心感にもつながっていくのではないのでしょうか。こうした経験の積み重ねが、日々の生活やこれからの人生を豊かにしていくものと考えています。

本校の生徒には、「共に支え合う」ことのよさを実感し、人とのつながりの中で生まれる温かさや喜びを、自分の力としていってほしいと願っています。今後も、こうした学びの機会を大切にするとともに、地域の方々との関わりも一層深めてまいります。

これからも、生徒一人一人が互いを思い合いながら、自らを高め、粘り強く努力する中で、たくましく成長していけるよう教育活動の充実に努めてまいります。保護者並びに地域の皆様には、今後とも変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



# ご家庭で考えたいスマートフォン・SNSの利用

生徒指導主事 鈴木 大地

中学生になると、スマートフォンやSNSの利用を通して、子供たちの世界は急速に広がっていきます。便利である一方で、使い方を誤ると、心や体への影響だけでなく、人間関係や将来にも影響を及ぼす可能性があることを、学校として改めてお伝えします。

SNSの中には利用できる機能に年齢制限が設けられており、年齢を偽ってアカウントを取得する行為は利用規約に違反します。このような状態でトラブルが生じた場合、十分な保護や適切な対応を受けにくくなることがあります。また、利用方法によっては、意図せずとも誹謗中傷や画像・動画の拡散等に発展し、結果としてお子様だけでなく、ご家庭の責任を問われる場面につながることもあります。

特に、保護者の皆様に注意していただきたいのは、「本人に任せている」「今のところ問題は起きていないから大丈夫」というような楽観的な状況をつくらないということです。インターネット上のトラブルは外からは見えにくく、水面下で進行することがあります。気付いたときには、心に深い傷を負っている（負わせてしまっている）ケースも少なくありません。また、使い方によっては生活リズムの乱れや、現実の人間関係への影響も心配されます。学校では、情報モラルや人権、言葉の責任について継続的に指導していますが、スマートフォンやSNSの利用そのものを管理することはできません。だからこそ大切なのは、「すべてを見張ること」ではなく、年齢に応じた使い方について、ご家庭で関心をもち、親子で話し合ってくださいと考えています。

不安や迷いがある場合は、どうかご家庭だけで抱え込まず、学校にもご相談ください。子供たちをトラブルから守るためには、学校と家庭が同じ認識を持ち、連携していくことが大切です。気になることがありましたら、どうぞ遠慮なく学校までご相談ください。ご家庭と学校が連携しながら、子供たちを守り育てていきたいと考えています。

## ～ 今年度のアクションプラン ～

学校の教育目標の実現に向けて、今年度のアクションプランを3項目設定しました。達成目標を設定し、方策を見直しながら取組を進めていきたいと考えています。

### アクションプラン1（知）

重点課題	計画的に課題に取り組む習慣を確立する。（自分を高める力）
達成目標	『今週の課題』に計画的に取り組んでいる」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
方策	①年度当初に、教科担任から家庭学習の取組方法について、授業時に説明したり、プリント等を配布したりして指導する。 ②毎週火曜日に配布する『今週の課題』は適切な内容や量を考えて提示し、提出日が同じ日に集中しないように配慮する。 ③代議員会を中心に、家庭学習の取組みや計画の立て方に関するポスター作成を行い、課題への取組みや期日を守ることを意識させる。

### アクションプラン2（徳）

重点課題	生徒の自己肯定感を高める。（自分と向き合う力）
達成目標	「学校での日々の授業や活動の中で、自分が成長したと感ずることがある」「自分にはいいところがある」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
方策	①日常の授業の中で、「考える→学びを言語化→振り返る」というサイクルを重ねる。 ②各種行事に目標を設定し、プロセスを重視した振り返りを行うことで、達成感や自己有用感をもたせる。また、SSTや構成的グループエンカウンターを実施し、相互理解と心理的安全性を高めることで、自分も他者も大切にできる人間関係を構築する。 ③校紀委員会で、学期末に「人権意識チェックカード」による自己評価を行い、言葉遣いや相手への態度等への人権意識を高める。

### アクションプラン3（体）

重点課題	心配ごとや悩みに対する援助要請の態度やスキルを高める。（他者と関わる力）
達成目標	「心配ごとや悩み等があるとき、気軽に相談できる人がいる」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
方策	①教員が効果的な悩み等の相談の仕方を学び、面談に生かす。 ②発達段階に応じた「お互いを大切にする」と関する講演会を行う。 ③学校保健委員会で「SNSや生成AIの使い方」に関する講演会を開き、正しい知識を学ぶ機会を設ける。